

---

---

# 2012年度 事業報告書

---

---

より良い 2013 年度を創りだすため



特定非営利活動法人  
今治 NPO サポートセンター

— 目 次 —

I	2012年度総括	1
II	2012年度事業報告	2
1.	今治市民活動センター管理運営事業	2
(1)	施設の運營業務	2
(2)	市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務	5
(3)	機関紙発行とこれに付随する情報収集業務	7
(4)	市民活動団体相互の交流推進業務	14
(5)	ボランティアコーディネート業務	14
(6)	相談業務	15
(7)	まちづくりサポーター業務	15
2.	その他の事業	18
(1)	情報提供事業	18
(2)	審議会・委員会への参加	18
(3)	講師派遣	19
(4)	共同開催事業（東日本大震災被災地ボランティア活動ボランティアバス運行）	19
(4)	協力事業	22
(5)	資源回収活動事業	22
(6)	いまばり夢学校開校準備事業	22
(7)	「しまなみ資源」を活用した地域振興事業	22
3.	会議に関する事項について	24
(1)	総会	24
(2)	理事会	24
III	2012年度決算	25
1.	2012年度活動計算書	25
2.	2012年度貸借対照表	27
3.	2012年度財産目録	28
4.	2012年度監査報告書	29
IV	2013年度事業及び予算	30
1.	2013年度事業計画書	30
2.	2013年度事業予算書	37

## I 2012 年度総括

私たち一人ひとりが主体となり、活気ある地域社会を築いていく。そのための受け皿・NPOを育てようと、「NPO法改正」、それに伴う寄付を促す「認定NPO法人制度」の認定要件緩和等、制度やしきみが機能しはじめました。推進が叫ばれる「協働」も、行政が提供してきたサービスを行政に代わって提供してだけでなく、従来行政が行ってこなかったようなもの、さらには、もともと民間の仕事であったものに公共的な意味を提供するものといった、多様な切り口で、市民社会への道程を描き、実践していく必要性を感じました。

指定管理者として運営をする「今治市民活動センター」は更新後の一年目をスタートし、4月にはセンターを使用くださる皆さまとの交流を含めた意見交換会を開催。高校生を中心に若者の来館が増えたり、市民へ施設の存在の認知が広まったりと、地域に根ざした運営への評価がある一方、団体同士、行政・企業との具体的なコーディネートが欲しいとの、益々の支援を求める声もありました。新たな業務となった「まちづくりサポーター」業務は、個々の知識や経験を団体へつなぐもの。一つでも多くの橋渡しを出来るよう、引き続き努めていきたいと改めて感じております。

自発的に集まった初対面のボランティア市民で東日本被災地に趣いた「ボランティアバス」。溢れんばかりの今治タオルと愛媛みかんを乗せて、たくさんの市民に見送られて出発しました。物心両面に渡るたくさんの善意がつながる魅力を実感しました。そして何より、今治市民の底力を感じた瞬間でもありました。経済不況は回復の兆しを見せつつも、暮らしの様相は厳しさの中です。それでも、「今治は元気だね」と声をかけられることが多かった一年。明るい話題が連鎖し続けていくために、市民レベルの小さな活動をつなぎ、大きなうねりにしていく応援団を微力ながら担っていきたい所存です。

以下に 2012 年度の報告をまとめました。会員の皆様におかれましては、ご意見、ご批正をいただくとともに、引き続きセンターの事業をささえていただきたくお願い申し上げます。

## II 2012 年度事業報告

### 1. 今治市民活動センター管理運営事業

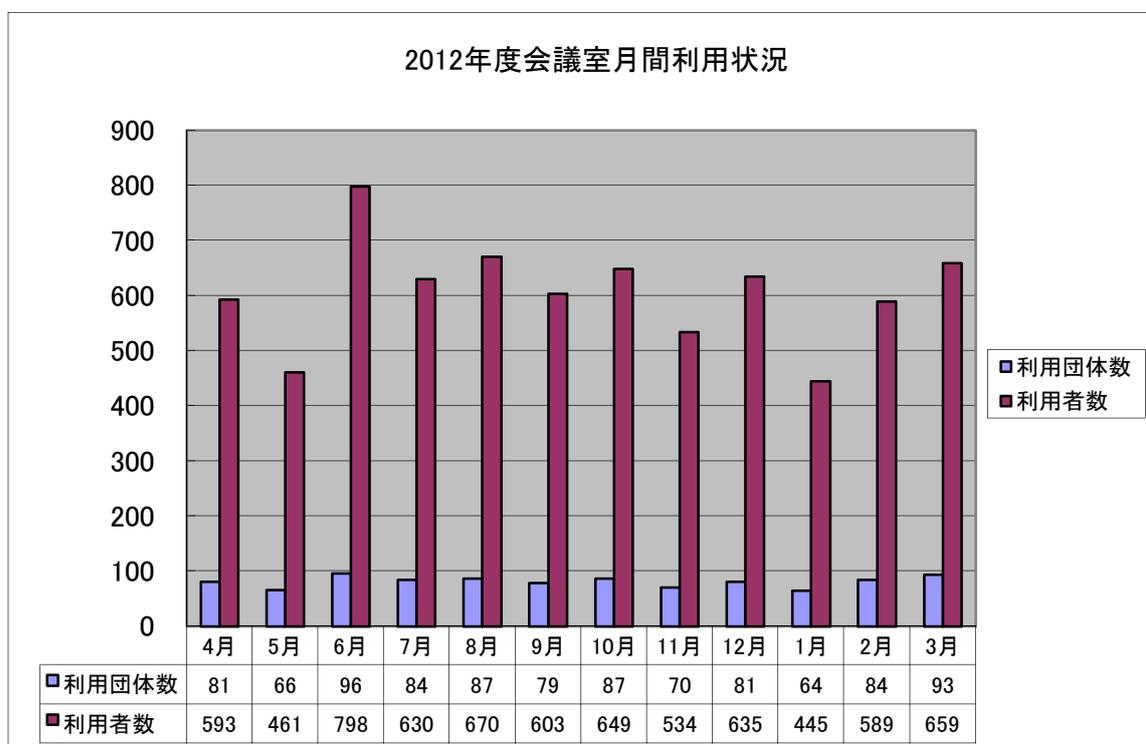
#### (1) 施設の運営業務（使用調整、受付・案内業務など）

内容	通年事業（月から土曜日 10 時～19 時開館 （事前申込みがあれば、日曜日、祝日 10 時～18 時開館。平日 22 時まで開館）。 ・貸会議室の無料提供（登録団体に限る） ・機材の貸出 ・情報交流スペースでのインターネット回線の利用や書籍の貸出 ・貸事務所の効率的な運営
対象	センター登録者・市民ボランティア・一般
手法	・スタッフは使用者と積極的にコミュニケーションをはかり、意見の収集に努めた。 ・事務所入館団体募集を広報、機関紙等で行い、入館を呼びかけた。
結果 課題	<p>会議室の利用者は 972 団体 7,266 人となった（H23 年度；828 団体、6,352 人）。印刷機器、裁断機、紙折機、プロジェクター、スクリーンなど、市民活動団体の広報活動、会議の運営などに欠かせない備品が整い、多くの方に利用いただいた。デジタルカメラ等、ワークショップやイベントの記録等に活用できる備品貸出にも柔軟に対応し、好評だった。1 階ロビーにある、インターネット接続済みのパソコン利用や書籍閲覧ができるスペースの活用も増え、会議終了後、懇談する姿が多数見られた。</p> <p>貸し事務所は、途中に入退室があったが、3 月末現在で 7 団体が入館しており、内 3 団体が 2 部屋を使用している状況である。事務所を持つことで活動の幅が広がるなど、その効果も生まれている。貸出の許可等の手続きが指定管理者に委譲され、簡易になり、入館団体には好評である。</p> <p>センター業務に関わってくれる高校生のボランティアの出入りがある等、若者の姿が増え、活気ある雰囲気となった。開館から 10 年以上を経過し、施設の認知度も向上している。より多くの市民に足を運んでもらうことができるよう努めたい。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・備品が整っており、貸出の手続きが簡易なので助かる。</li><li>・コピー機の性能がよくて、素晴らしい。</li><li>・会議室に食器が備えてあり、準備が省けて助かる。</li><li>・冷暖房が安く利用できて、とてもありがたい。</li><li>・台所が使える。</li><li>・事務用品を貸してくれて助かる。</li><li>・事務作業のスペースを作ってくれてよくなった。</li><li>・市の中心部にあり、集まりやすい。</li><li>・駐車場が手狭である。</li><li>・トイレを洋式にしてほしい。</li><li>・男性用トイレと女性用トイレが分かれているといい。</li><li>・事務室が手狭である。ユニットバスのスペースがなくなるといい。</li></ul>

## 2012年度センター利用状況詳細

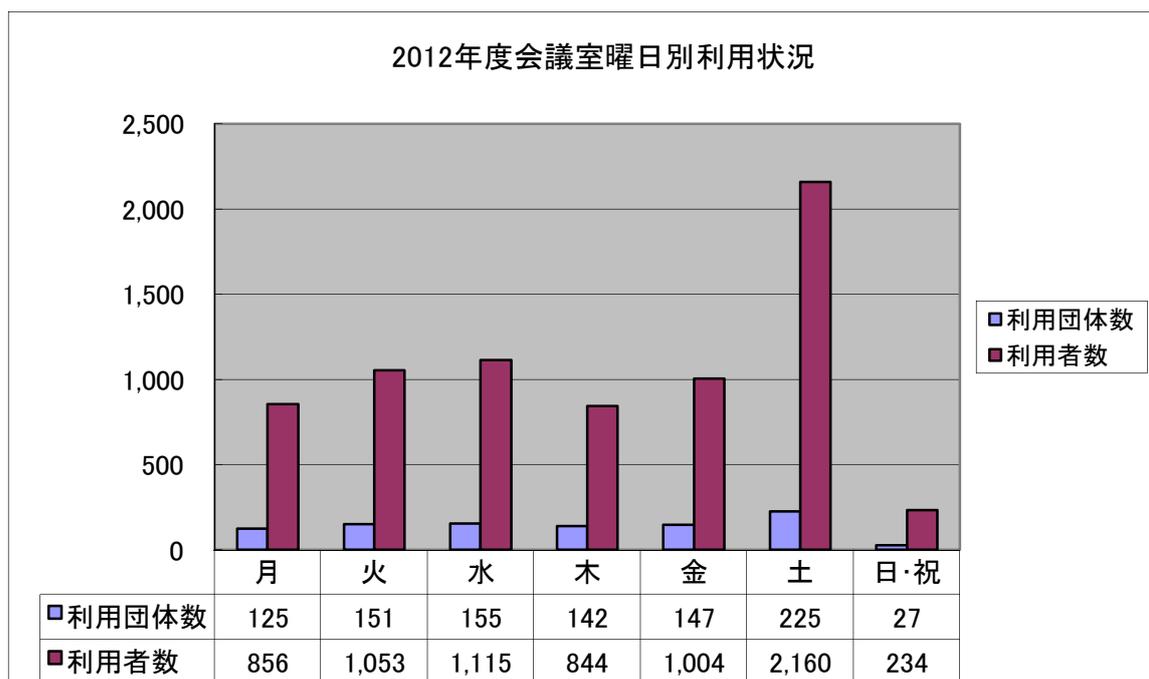
【センター利用状況(月間)】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用団体数	81	66	96	84	87	79	87	70	81	64	84	93	972
利用者数	593	461	798	630	670	603	649	534	635	445	589	659	7,266



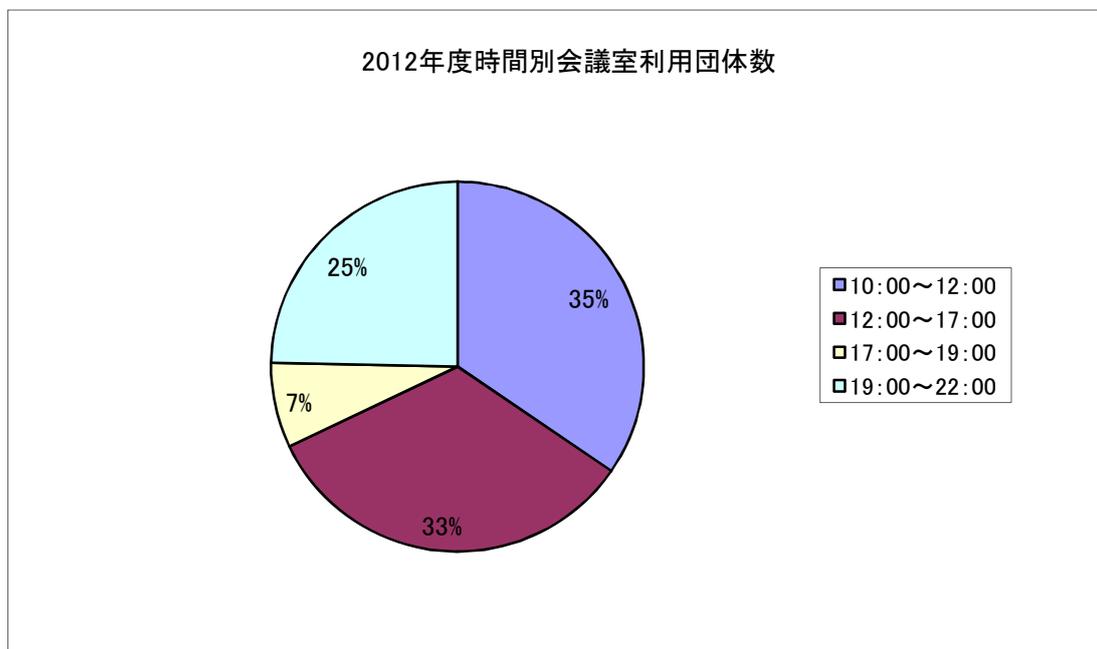
【センター利用状況(曜日別)】

	月	火	水	木	金	土	日・祝	合計
利用団体数	125	151	155	142	147	225	27	972
利用者数	856	1,053	1,115	844	1,004	2,160	234	7,266



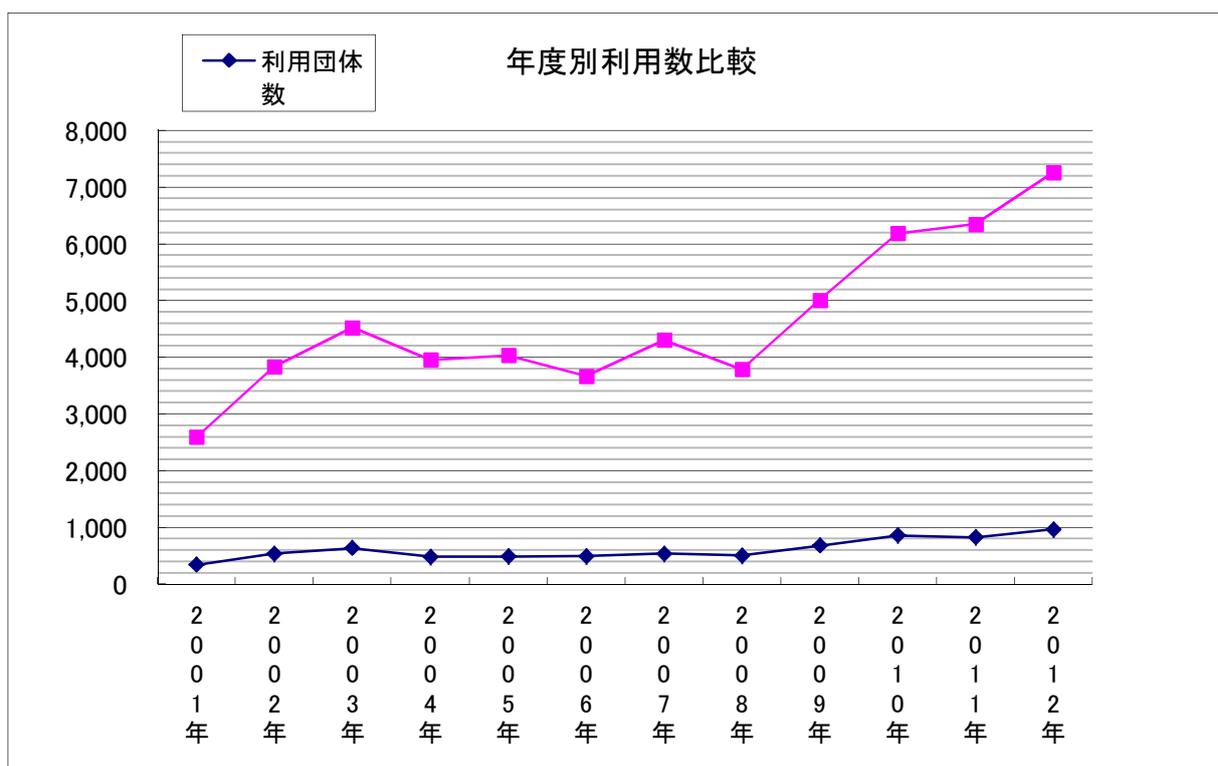
【時間別会議室利用団体数】

利用団体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
10:00~12:00	28	20	24	26	30	25	23	20	23	17	20	26	282
12:00~17:00	27	21	38	30	35	28	40	25	33	27	33	33	370
17:00~19:00	6	6	8	7	5	6	5	7	10	5	7	11	83
19:00~22:00	20	19	26	21	17	20	19	18	15	15	24	23	237
合計	81	66	96	84	87	79	87	70	81	64	84	93	972



【年度別利用数比較】

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
利用団体数	345	542	640	489	492	496	543	510	682	862	828	972
利用者数	2,597	3,841	4,528	3,957	4,037	3,673	4,306	3,790	5,015	6,191	6,352	7,266



## (2) 市民活動基礎講座ならびに市民活動スキルアップ講座の開催業務

内容

(第1回) 平成24年6月10日(日) 10:00~12:30 参加者:9名

高校生を中心とする若い世代が、今治市で活動する市民活動取材し、彼らの発想や視点をいかして、地域の現状や求められる活動を「機関紙・ラジオ・ブログ」で発信していくプロジェクト初回研修会。取材先である市民活動の概念を理解した後、取材の基本、文章を書く手順や方法を学んだ。「学校だけでは学べないこと」「将来に役立つ活動」との期待を持った9名の学生が集まり、ボランティア活動がスタートした。



取材は事前準備が重要。プロの新聞記者の技として、ペン、メモ、カメラ等の使い方を伝授。



読み手を意識し、前半に「5w1h」を盛り込み、「結論をコンパクトに」要約することが大切との助言。



相手の思いを聞き出す取材に挑戦。「伝える」と「伝わる」は違うということを感じた。

(第2回) 平成24年6月15日(金) 16:00~19:00 参加者:9名

今治市内で活動する団体情報収集と活動を社会へ発信する情報発信のあり方を学ぶことを目指し「愛媛新聞社今治支社訪問ツアー」を開催。愛媛新聞社今治支社内で団体情報収集。広報を支援したい団体をイメージし、質問項目を検討し、取材、記事化する一連の広報活動について実地研修を行った。参加者のほとんどが、身近にある活動の存在を知らない事実を痛感。活動の認知度向上の必要性を再確認した。



実際に市内で活動する市民活動団体を選び、取材時の質問項目を作り込む。真剣!



社内見学は発見がいっぱい。記者の皆さんは日常的に地域情報を察知する目がありそうだ。



写真と合わせ、映像撮影についても手ほどきを受けた。被写体により、迫力ある映像をおさえない。

取材に向けて、グループでの準備会を順次開催(7/23 10名・8/7 10名)

取材は、グループごとに実施(8/22 4名・8/27 3名)



2グループにわかれ、取材先を選択。団体名、活動テーマ等で興味がある2団体を選択。



早速、取材。男女共同参画社会実現への社会背景には、女性目線の熱い思いを感じた。



まちおこしに真剣に関わる地元企業の方の言葉を伺う機会も得た。社会貢献の意味を紐解くひと時。

(第3回) 平成24年9月1日(土) 13:00~16:00 参加者: 14名

NPO等に活動の発信力が求められる中、広報ツールの最新版iPadを活用した人を惹きつけるPR映像の撮影・編集・発信技術を学んだ。参加団体は5団体。写真や映像のツボをおさえながら、実践。活動内容をコンパクトにまとめるために、分かりやすくインパクトのあるキャッチコピーを工夫したり、ストーリーを考えたりと実践的に学ぶことを通して、NPOに求められる情報公開の大切さを学んだ。



「撮影・編集・発信」が1台で!  
「iPad」を触るのは初めての参加者は興味津々の様子。



テーマ・取材を明確に。音声も大事。そんな助言を受け、早速編集に!



IT上で人が注視してくれる時間は2分。「編集は削る作業」。この難しさを体感した参加者。早速、YouTubeにUP!!

### ■参加者の声■

- ・思った以上に簡単で、驚いた。
- ・映像に難しいイメージを持っていたが払拭。
- ・iPadでの作業に、情報発信の楽しさを感じた。
- ・iPadでここまでできるとは思わなかった。
- ・芸術の才能がなくても、かなりの所まで自分達の方でできるのだと実感できた。

(第4回) 平成25年3月23日(土) 13:00~17:00 参加者 55名

平成25年度に獲得のチャンスがある助成情報を聞く機会として開催。冒頭、トヨタ財団プログラムオフィサーから、会費・寄付・事業収益・補助金、助成金・委託金等、多様にある収益源の中で、補助金、助成金は新規事業の立ち上げや事業改善という“タイミング”と資金提供者の思いを理解して申請すべき“性質”を学んだ。その後、9つの助成プログラムの説明が各担当者からあり、参加者はメモを取りながら熱心に聞いた。事前申込制で行った個別相談会は14団体が希望。担当者に提案事業の合致や留意点を質問でき、「いい機会だった。勉強になった。」と満足の声をいただいた。

### ■報告書詳細はp8~p11に掲載



「目的や活動の見直し」を行う等、本当に今。その資金が必要か考えて欲しいと助言。



歴史がある助成制度も認知度はまだまだ低め。「もっとじっくり聞きたい」との声も。助成情報獲得の機会としてのニーズを認識。



前金払、対象経費等の事務的な教示から、事業の構築への助言まで、個別に対応。

### ■参加者の声■

- ・冒頭に、助成金、補助金の性質のレクチャーがあり、分かりやすかった。
- ・助成制度のしくみを学べて、いい機会だった。
- ・個別相談があり、資金提供者と団体がつながる機会があり、よかった。
- ・もっと一つ一つをじっくり聞きたかった。

対象	市民活動に関心のある一般市民（高校生中心）
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人や資金といった運営に必要な資源を集める支援に重点をおいたプログラムを設計した。</li> <li>・人の参画においては、担い手不足及び担い手の高齢化が課題となっていることから、地域の若者が参画できるプロジェクトとした。</li> <li>・若者の社会貢献意識が高まる中、地元の高校生にターゲットを絞り、センターへの来館も促した。</li> <li>・情報発信においては、地域への分かりやすい発信のチャレンジとして、ipad の活用を試みた。</li> <li>・多様な広報チャンネルを活用し、老若男女に届く情報発信にトライした。</li> </ul>
結果課題	<p>「NPO法改正」「認定NPO法人取得」等、NPOを取り巻く環境が大きく変化      する中、特に寄付獲得が叫ばれた。寄付を獲得するためには、団体の信頼性向上が      必須で、また同時の適切な情報開示と届けたい人に情報が伝わるしくみが求めら      れる。高校生が参画した「市民活動リポーター」活動は、第三者の目線で活動の      意義や魅力を社会へ発信する機会として有意義であった。広報やコミュニケーション      に課題を感じる団体を対象に、若者が発信を手伝い、広報面の課題解決を担う      プログラムとして実施。広報ツールの最新版（iPad）を活用した人を惹きつけ      るPR映像の撮影・編集・発信は、若者の感性をいかし、その技術を団体に還元      できた。</p> <p>寄付あるいは会費の獲得をNPOの生命線であり、地道な努力が目指される      ところである。また、活動の趣旨によっては、助成金・補助金獲得のチャン      スがあるが、助成プログラムの情報がうまくキャッチできなかったり、思      いを具現化した申請書が作成できなかったりして、獲得に至っていない      団体も多い。そこで、活動を進めていく上で重要な資金の一つである助      成金・補助金へのアプローチについて学ぶ説明会も開催、好評だった。次      年度以降も継続したい。</p> <p>■高校生リポーターが製作した機関紙（成果物）はp12～p13に掲載</p>

### （3）機関紙発行とこれに付随する情報収集業務

内容	「夢サラダ」（年間2回）、「得夢サラダ」（年間12回）を編集、発行した。また、活動経験のない一般市民に情報を届け、市民活動の意義や魅力を伝えようと、「夢サラダ」配布場所を開拓した。
対象	市民活動団体・一般
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の担い手を紹介することで、まちの特性を感じることができる誌面とした。</li> <li>・ホームページでも情報を伝えた。</li> </ul>
結果課題	市民活動団体122団体、施設・機関32箇所に配布した。配布部数は毎月冊子2028部、掲示用371部となった。身近な地域の魅力を伝える誌面構成としたことで、市民活動経験のない方にも読みやすいとの意見をいただいた。掲載内容は、本会のホームページへ掲載し、多様な方へ情報を届けるよう努めた。より多くの方に購読してもらえるよう、誌面の工夫、配布・掲示場所の開拓に取り組んでいきたい。

## ■詳細報告書

# 愛媛県内の9つの助成プログラムを一挙に紹介！助成担当者につながる機会！！ 平成25年度 NPO・ボランティア助成プログラム説明会

NPO・ボランティアが地域に根ざし、継続的に活動するために資金獲得は大きな課題である。会費、寄付、自主事業収益等、団体の運営体系に合う資金獲得が目指されるところである。活動の趣旨によっては、助成金・補助金獲得のチャンスがあるが、助成プログラムの情報がうまくキャッチできなかったり、思いを具現化した申請書が作成できなかったりして、獲得に至っていない団体も多い。活動を進めていく上で重要な資金の一つである助成金・補助金へのアプローチについて学ぶことを積極的に提案したいと願い、本説明会を開催した。



日時：平成25年3月23日（土） 説明会 13:00～15:30・個別相談会 15:45～17:00

会場：今治市総合福祉センター 愛らんど今治4F 多目的ホール1（今治市南宝来町1丁目9番地8）

参加者：55名（30団体）

### 助成プログラムの情報浸透が大切

愛媛県内の6つの資金提供者にご協力をいただき、平成25年度に獲得のチャンスがある助成情報を聞く機会として開催した。資金提供者サイドへの登壇打診や事前の打ち合わせの際に、「助成プログラムの周知が十分でないこと」「事業実施者とのつながりをもっと持ちたいと思っていること」を伺い、このような説明会は、市民活動団体サイドはもちろん、資金提供者側も開催へ前向きであることが分かった。

### ペンを走らせながら聞き入る参加者の姿

4月に募集開始の助成プログラムが多いことを受け、説明会は年度末に開催。慌ただしい時期にも関わらず、数多くの参加者が会場に集まり、関心の高さが伺えた。9つの助成プログラムの概要や申請書類、過去の助成実績など、資料は膨大となったが、1枚1枚に目を通しながら熱心にメモを取る参加者。「知らない情報を得られた」「申請への心構えができた」と、毎年1回はこのような説明会開催の必要性を求める声を聞くと同時に、「もっとじっくり聞きたかった」等、開催にあたっては各助成情報の説明時間を十分に確保して欲しいとの意見も寄せられた。



### アイデアを助成金・補助金に結びつけるために

資金提供者を代表する形で「トヨタ財団プログラムオフィサー・大庭竜太氏」が講演。会費、事業収益等とは異なり、「外部」の支援に依存する「助成金・補助金」は、獲得できないリスクもあるため、定常的な費用（事務局を支える人件費や管理費等）には適さないことを説明。新規事業開始や事業改善時に獲得チャレンジして欲しいとの助言があった。また、資金を提供する側の期待に応えるべき資金であるため、提供者の思い（ミッション）に寄り添った事業提案が大切であることを重ねて教示した。



▲「目的や活動の見直し」を行う等、本当に今。その資金が必要か考えて欲しいと助言。

### 整理：NPO等の活動資金

種類	外発的 内発的	支援？ 対価？	提供者の成 果への期待	団体ミッシ ョンとの整合
会費	内	支援/対価	○	◎
寄付金	外	支援	○	○
自主事業	内	対価	△	？
委託事業	外	対価	◎	△
助成・補助	外	支援	◎	○

### ポイント：獲得・活用は、団体・事業の再点検から！

●目的の点検●活動の点検●成果の展望

## プログラムの説明

### ●今治市市民が共におこすまちづくり事業補助金

今治市を個性的で魅力あるまちにする継続的な取組を支援。前金払も可能にする等、柔軟対応。過去の補助先は「今治市広報」に一覧掲載。(今治市市民まちづくり推進課)



Q.支援額が大きいですが、競争率は？

A. 制度開始当初は競争率も高かったが、近年は予算額を下回る年もあり、チャンス！

### ●愛媛県NPO法人活動助成事業

県民の寄付を積み立てた「あったか愛媛NPO応援基金」を活用。事前登録が必要で、現在、登録法人数が65程度。利用していない法人も多い。申請時は、概要説明書類の添付がお勧め。



### ●愛媛未来づくり協働提案事業

県や企業等との協働事業を公募。県が提示するテーマと自由テーマの2種への応募あり。募集説明会を開催する他、前年度の事業実施者による成果報告会も開催。(愛媛県男女参画・県民協働課)

Q.事前の相談はWELCOME？

A.応募を検討している時は気軽に相談に来て欲しい。

### ●まちづくり活動アシスト事業

「地域特性、地域資源を有効活用しているか？」等の審査基準を設け、事業を選定。支援事業に担当職員1名付く。その他講師派遣、人材育成支援も活用。(えひめ地域政策研究センター)



Q.支援事業の報告会のやり方は？

A.地域づくりリーダーを養成する「地域づくり人養成講座」初回に受講生を対象に行う。受講生以外も参加もOK。

### ●赤い羽共同募金 ボランティア・NPO活動支援事業

県民の募金が財源。書類審査のみの選定なので、可能な限り、事前の相談に希望对したい。採択事業の現場には1回は足を運ぶ。「先駆的・開拓的」とは、福祉の新たな領域を広げる提案を期待。



(社)愛媛県共同募金会)

Q.前金払のしくみは検討しないか？

A.前金払制を採っていた時期もあり、ニーズがあるのも分かるが、現在は難しい。

### ●共同募金配分金事業

共同募金の財源を活用し、今治市(旧今治市内)の社会福祉、地域福祉の活動を支援する制度として、2013年度に新規スタート。HPや広報で告知はこれから。認知度が低い1回目の今季はチャンス！(今治市社会福祉協議会)



### ●伊予銀行地域文化活動助成制度

活動実績が10年を超える団体を助成。22年の歴史ある助成制度だが、県民の認知度は2割程度(独自アンケートによる)。「県展入賞」等の著名性を支援する枠組みではなく、地道な草の根団体を応援したい。



### ●公益信託伊予銀行環境基金「エバグリーン」

県で初の自然環境保護を目的とする公益信託。担当行員が申請書類提出から、実際の活動現場のお手伝いにも参画。行員・家族のボランティア参加も積極的に取り組んでいる。(伊予銀行)

Q.行員・家族が活動現場に足を運ぶことへの反応は？

A.団体の皆さんに喜んでいただいている。資金提供に留まらず、人の参加・協力の枠組みでも支援の輪を広げたい。

### ●SeeD

寄付環境調査を313人対象に実施。「1000円」なら寄付しやすいと、41%が回答。この実証のために「団体がプレゼン・参加者が寄付」する催しを展開。共感を広げる「説得ではなく納得」の機会を提供。(いよココロザシ大学)



Q.プレゼンテーションのポイントは？

A.○数値化する→資料が一人歩きしても説得力あり○結論から言い、結論で終わる→言いたいことが2度言える。

### 個別相談会

事前申込性で実施。14団体が希望し、「この事業はマッチするか」「事業対象経費は」等、個別の質問を各助成担当者に投げかけた。丁寧に対応くださり、相談後は晴れやかな笑顔に。



## アンケート結果

42名/55名・回収率76%

### ① 説明会について（複数回答可）

興味が持ててよかった	28
よかった	14
興味が持てなかった	0
課題が具体的になった	11
課題解決のヒントがあった	13
情報交換できた	3

#### [よかった点]

- ・情報が少なく、不明点があった。話が聞けてよかった。
- ・0 からの出発。何をどうするか具体的に考えてまとめて、おかないといけないと思った。
- ・知らないことばかりでとても勉強になった。
- ・自分にあった助成制度を考えないといけないと思った。
- ・自分に合った助成金の話を聞きに来たが、その他の話と一緒に聞いて興味深い助成金の話もあった。
- ・一ヶ所で様々な説明を聞くことができる点。よかった。参考になった。(2)
- ・県内全域の情報(バラエティあり)が並びよかった。(2)
- ・制度を知り、活用を考え、活動範囲が広がった。
- ・資金提供者と意見交換できるという点がよかった。
- ・パネルディスカッション形式の実施がよかった。
- ・大変わかりやすかった。すべてよかった。(3)
- ・細かく納得できた。理解が深まった。(2)
- ・知らなかった事が勉強できたが、まだ漠然としている。
- ・とても興味が持ててよかった。次回も参加したい。
- ・大庭氏の進行が、質問も含まれていてよかった。ポイントをまとめて質問してくれてよかった。(2)
- ・大庭氏の補助的な質問や問題点の提示があり理解しやすかった。
- ・休憩なしでどんどん進む事がよかった。
- ・進行係もテキパキしてよかった。
- ・どのような活動に対して支援するのか分かった。
- ・助成、補助金の内容が具体的に把握できた。
- ・助成金のシステムを知らなかった。知れてよかった。
- ・色々な助成金のチェックポイントもわかり、自分達に必要なものが見極めるポイントやヒントが分かった。
- ・具体的な補助金、助成金の話が聞けてよかった。
- ・聞かなければ分からない(裏側など)が聞いた。
- ・いろんな窓口があることがわかった。
- ・ネットで探すよりも具体的ですぐにつながりそう。
- ・お茶やコーヒーの用意がよかった。

#### [改善点]

- ・良い、悪いの判断がつきにくい。
- ・一挙に聞けるのはよいが、駆け足だった。
- ・公の説明は少し理解しづらい(実践がないため)。
- ・採用例の会場掲示があるとよりよかった。
- ・実例も発表していただければよりわかりやすいと思う。
- ・時間のない場合は、質問は受け付けずに最後に個別にした方がよいと思った。
- ・事前に質問用紙を配布すればいいと思う。
- ・会場から制度への要望等意見を聴取すればよかった。
- ・2日に分けるなど、各担当者に2倍の時間でゆっくり説明して欲しかった。
- ・休憩もはさみながらゆっくり聞けたらよいと思う。
- ・休憩が欲しい。もう1回休憩の時間が欲しかった。(2)
- ・若干時間が長い。
- ・駐車場がわかりづらかった。
- ・資料に番号と発表者名を記載してほしい。
- ・書類内容をもう少し簡単にしてほしい。
- ・暖房を入れてほしかった。
- ・駐車場を広いところにしてほしい。
- ・会場の駐車場案内がわかりにくくて迷った。

愛媛県内の主な助成プログラム担当者。“名指し”相談も大丈夫と、相談しやすい窓口がうれしい。▶



◀各プログラムの概要や応募書類を配布。過去の助成実績や助成事業の現場を写真で提示する等、工夫した説明をいただいた。



## ②特に興味を持ったこと（複数回答可）

トヨタ財団によるミニ講座	17
各助成プログラムの説明	30
個別相談会	1

- ・トヨタ財団のミニ講座で基本的な心構えなどを説明してくれたので、あとの説明がよりわかりやすくなった。(2)
- ・ミニ講座は、資料もすごくまとめてあってよかった。
- ・取組できる事、興味ある事業があった。申請したい。
- ・個別相談があることがよかった。
- ・新規事業に対しての助成が多いが、継続事業への応援をこれから先、していただくと大変ありがたい。立ち上げも大変だが、継続することも現場では大変である。
- ・直接お話しをうかがえてよかった。
- ・ベテランらしくわかりやすかった。
- ・行政の話はわかりにくい。民間、NPO はわかりやすい。
- ・地域を盛り上げるためには、いい助成だと思った。
- ・知らない助成もあり、人脈の広げ方に興味があった。



◀先着順でご対応いただいた個別相談。申請への心構えも含め、対面でしか聞けないことを投げかける。対応した資金提供者からも「いい機会でした」との言葉をいただき、感謝！



◀時間の制約があり、1団体15分を譲り合いながら相談いただきました。ご迷惑をおかけしました。

## ③ 助成プログラム説明会開催の継続

必要だと思う	40
内容による	2
必要ないと思う	0

### [開催時期について]

- ・時期的によかった。
- ・3月の予定がいい。
- ・年度内(2~3月)がよい。
- ・募集時期に合わせての開催は、タイミングがいい。
- ・来年度の活動を考える時期で参考になった。
- ・企画やプレゼン準備を考えると、もう少し早め2月。
- ・もう少し早く、1月くらいでも。
- ・もう少しゆとりのある時期がよい。
- ・年2回(7・2月くらい)あるといい。
- ・できれば別の日程の説明会もあればいい。

### [説明内容について]

- ・今回の内容でよい。
- ・充分だと思う。
- ・柔軟な補助制度がいい。
- ・国(省庁)が行う助成・補助の情報もあればいい。
- ・第2部として全国の代表的なもので、比較的取りやすいものの紹介もあると嬉しい。
- ・省庁の補助事業や分野別説明会もいいのでは。
- ・過去の事例が全体的に欲しい。
- ・助成を受けた人の発表があればいい。
- ・交流会を催すなど、して欲しい。
- ・民間から行政までいろいろな説明が聞けてよかった。
- ・新居浜でも説明会をしてほしい。

### 【その他】

- ・駐車場の案内があればいい。
- ・駐車場は広いところがいい。

# 今治に元気を!!にぎわい部会

## 今治を盛り上げるために

今治市中心市街地再生協議会にぎわい部会は今治市を盛り上げるため、まずは、「港」「広小路」「商店街」などの中心市街地のシンボルチックなエリアからの活性化を図っている官民協働の協議会だ。

イベントの開催や土曜夜市への協力の他、主催イベントとして「シンボル広小路」を開催している。徐々に成果は出ており、中心市街地が楽しむ空間へと変わりつつあるのだ。

まちなかに「にぎわい」や「コミュニティ」を生み出していく活動取材した。

## 仕掛け① 緑のテント「一坪ブース」

土曜夜市で、緑色のテントを見かけたことがあるだろう。通称「一坪ブース」と呼ばれているこのブースは、にぎわい部会の協力を得て一般市民が出店したブースだ。昔のおもちゃを作って売っているブースなどが見られる。

独力で出店することは難しくても、出店の意思がある有志の人たちに協力することで、市民とにぎわい部会が一体となった「にぎわいづくり」につながっている。



一坪ブースの様子。子どもの笑顔も多く見られた▲

## 仕掛け② 動く市場!?「軽トラ市」

昨年10月に開催した「シンボル広小路」。目玉となっているのが広小路側道部分に並ぶ「軽トラ市」だ。こちらはその名の通り、軽トラックをそのまま屋台にする取組で、準備や撤収の手間が省け、手軽に出店できることがメリットである。2年目となる今回は約60台もの屋台が並んだ。

イベントの周知も充実し、来訪者も増えた。斬新な発想により実現した「軽トラ市」の今後に注目したい。



側道に並んだ軽トラ市。いつもとはまるで違う風景▲

## にぎわいの形

中心市街地にスポットをあてたイベントで、今治市の活性化に取り組むにぎわい部会。同部会の部会長を務める作田憲一さんは、イベントなどでの活動の重要性とともに、「それだけではいけない」と語っている。にぎわい部会の目指す「にぎわい」とは、イベントのときのみ、一時のみにぎわいではなく、日常的に人々でにぎわい、楽しみが持続する本当の意味での再生である。

イベントで人々に集まる機会をつくり、それをきっかけに楽しい空間創出へ知恵を絞り、しくみにする。

今治に本当のにぎわいを取り戻すまで、にぎわい部会の活動は続く。



▲にぎわい部会の部会長、作田憲一さん。

今治市中心市街地再生協議会HP <http://chuushin-imabari.jp>

## 編集後記

土曜夜市のチラシに、「今治市中心市街地再生協議会にぎわい部会」の名前を発見したのが、取材を始めるきっかけだった。今治に元気を取り戻すための活動も気になったが、中心市街地という名前が目をつけた。

漠然と今治全体を捉えるのではなく、その中心である中心市街地に焦点をあてて活動しているところに、より具体的な印象を持った。

今治市ににぎわいが取り戻されるまで、にぎわい部会の活動は続く。笑顔が取り戻されるまで戦い続けるヒーローを思わせるにぎわい部会を、もっと多くの人に知ってもらいたいと思う。

森松晃紀 越智芽生 越智香那恵

# はやい! うまい! が僕の味 入る会

## ~ 男子厨房に ~~入る~~ べからず ~

近年、女性の社会進出が進み、職場等での活躍が見られる。しかし、視点をかえると家庭生活...とくに食事づくりでは性別役割が固定されている。男女共同参画推進事業の一環として「男性(夫)も台所に立とう」という意識をもってもらおうと活動している いまばり男子厨房に入る会 にお話を聞いた。



### What is 男子厨房に入る会?

- ☘ "はやくて、うまいが僕の味" のキャッチフレーズのもと、男女5名で発足。"男子厨房に入るべからず" の古きことわざを打破し、この会の名前となった。
- ☘ 食の安全、安心を求め、地産地消のもと、今治産の旬の食材を取り入れ、年6回の料理教室を行っている。また、特産のタオル地でエプロンを作成し、PRにも努めている。
- ☘ 20名の男性会員の、年齢・職業・動機はさまざま。料理実習を経験し、食事作りや予算内での買い物の大変さや一つの作品が出来る楽しさなどを感じているようだ。

### 実際に訪問!



今回のメニューは  
 [ あげだし豆腐 ツナサラダ ]  
 [ 豚じる おもじりめし ]

メニューは栄養のバランス・食材の旬を考え、1人500円以内のものを。また、一つの作業でできる簡単なものを選んでいる。

みなさん、真剣に楽しんでます →



本日の晩ごはん!!!



### いまばり男子厨房に入る会

☎/FAX 0898-32-0930 (西原)

### インタビュー

★ 向島武史さん(35歳)  
 「子どもに料理がおいしくないと言われたのがきっかけで参加しました。魚をさばいたのが印象に残ってます。」

★ 妹尾紀男さん(72歳)  
 「奥さんが亡くなってから会に入りました。料理は難しいけれど楽しいです。みんなと話せるのも良い!」



見よ このキジバネをっ



### 編集後記

☘ 「男子厨房に入る会」。なんておもしろい名前だろう、と思ったのがきっかけで取材先に選びました。取材先では想像以上に生き生きと料理に取り組む男性方が見られて驚きました。およぼれたご飯、すごくおいしかったです!

上田悠加・山岡華子・壺内晴香

#### (4) 市民活動団体相互の交流推進業務

	<p>◆使用者協議会</p> <p>平成 24 年 4 月 18 日（水）13：30～14：30 参加者：18 名</p> <p>事務室使用団体、会議室使用者と合同でセンター防火・避難訓練を行い、その後、今年度のセンター事業の企画内容を説明し、使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。今治市民活動センターの運営方針を共有、賛同いただくと共に、使用者は互いの活動を報告しあい、助け合って事業推進したいとの意見が出された。</p> <p>平成 24 年 12 月 19 日（水）11：30～12：30 参加者：18 名</p> <p>センター使用者によるセンター大掃除を行い、その後、センターの管理運營業務などについて使用者の意見をもらう「使用者協議会」を開催した。日常的に団体同士の横の連携がないため、このような意見交換の機会を定期的につくって欲しいとの声があがった。また、団体の事業告知については、もっと「夢サラダ」を活用したいとの声があった。</p>
対象	使用登録団体・市民ボランティア・行政職員
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今治市内の団体の活動紹介の場とする。</li> <li>・多様な活動に触れ、活動の広がりを感じてもらえる取り組みとした。</li> </ul>
結果課題	<p>「使用者協議会」の位置づけで、センター事業を話し合う機会となった。会議室や事務所の使い方のルール等の見直し、講座のテーマの検討等、ハード・ソフト両面について、使用者自らが参画しながらセンター運営していけるよう、協議の場を有意義なものにしていきたい。</p>



#### (5) ボランティアコーディネート業務

内容	ボランティアの応援を求めている方とボランティア活動をしたい方をつなぎ、双方が対等な立場で共に問題解決を図った。
対象	ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今治市社会福祉協議会と連携をとりながらすすめる。</li> <li>・情報提供を求めている人には、機関紙「得夢サラダ」やホームページなどを利用して活動を紹介する。</li> </ul>
結果課題	<p>初めて来館するボランティア活動希望者 54 件ボランティアを受け入れたい組織・個人 90 件のコーディネーションを行った。これまでボランティア活動のきっかけづくりを目的に、夏休みや冬休みに活動を集約して発信する「サマーボランティア・キャンペーン」「ウインターボランティア・キャンペーン」は、今年度から形式を新たに「ボランティアチャレンジ 2012」（愛媛県主催）として参加者を募集。その窓口の機能を果たすことで、今治市内の情報のみならず、愛媛県下の情報の発信や需給調整にも務めた。ボランティアコーディネーションを通して、市民活動団体が多様な人を巻き込み、活動を発展させることができるよう引き続き、調整をしていきたい。</p>

## (6) 相談業務

内容	<p>団体設立や運営などのアドバイスを、電話・メール・来所にて日常的に受け付け、対応した。平成24年度、初めて開催した支所単位での「出張相談会」。実績は、相談件数は4件と少ないながら、今治市陸地部にある本センターには足を運びにくい島嶼部を中心に好評だったことを受け、今年度は島嶼部4島・6か所で開催した。</p>																								
対象	<p>市民団体・行政職員</p>																								
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民活動団体が自らの課題を整理し、その解決策を発見することを支援する。</li> <li>・職員で対応できない専門的な質問については、地域資源（地域の専門家、他の支援センターなど様々なテーマに応えられる人、組織）を活用し、支援を行う。</li> <li>・初歩的な質問については、フロアーに掲示し、来館者に視覚的に知らせる。</li> </ul>																								
結果課題	<p>団体設立や運営など、173件の相談に電話・メール・来所にて対応した。「ネットワークづくり」「マネジメント」「資金調達」などについての相談が寄せられ、情報提供・サポートを行なった。相談に答えるだけでなく、相手の次のニーズをコミュニケーションの中で引き出し、対応した。「NPO法人設立」の事務的な相談件数が増加したことを受け、相談者に情報を提供する紙媒体の掲示物を充実させた。</p> <p>■使用者の声■</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても明るく親切に対応していただいている。</li> <li>・電話相談でも、丁寧に教えてくれる。</li> <li>・情報がたくさんあって、頼りになる。</li> </ul> <p>■出張相談会■</p> <p>広域合併した今治市において、周辺地域にお住まいの方にも、地域の人々の支え合い活動、社会サービスの提供などについて、気軽に相談する機会をつくることを目的に開催。今年度は特にニーズの高いことが想定される島嶼部に限定して、自発的な市民活動の促進、担い手育成を目指し、開催した。</p> <table border="0"> <tr> <td>吉海会場</td> <td>7月9日(月)</td> <td>10:00~12:00</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>宮窪会場</td> <td>7月9日(月)</td> <td>13:30~15:30</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>上浦会場</td> <td>7月11日(水)</td> <td>10:00~12:00</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>大三島会場</td> <td>7月11日(水)</td> <td>13:30~15:30</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>関前会場</td> <td>7月12日(木)</td> <td>10:00~12:00</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>伯方会場</td> <td>7月13日(金)</td> <td>13:30~15:30</td> <td>4件</td> </tr> </table>	吉海会場	7月9日(月)	10:00~12:00	0件	宮窪会場	7月9日(月)	13:30~15:30	0件	上浦会場	7月11日(水)	10:00~12:00	2件	大三島会場	7月11日(水)	13:30~15:30	0件	関前会場	7月12日(木)	10:00~12:00	0件	伯方会場	7月13日(金)	13:30~15:30	4件
吉海会場	7月9日(月)	10:00~12:00	0件																						
宮窪会場	7月9日(月)	13:30~15:30	0件																						
上浦会場	7月11日(水)	10:00~12:00	2件																						
大三島会場	7月11日(水)	13:30~15:30	0件																						
関前会場	7月12日(木)	10:00~12:00	0件																						
伯方会場	7月13日(金)	13:30~15:30	4件																						

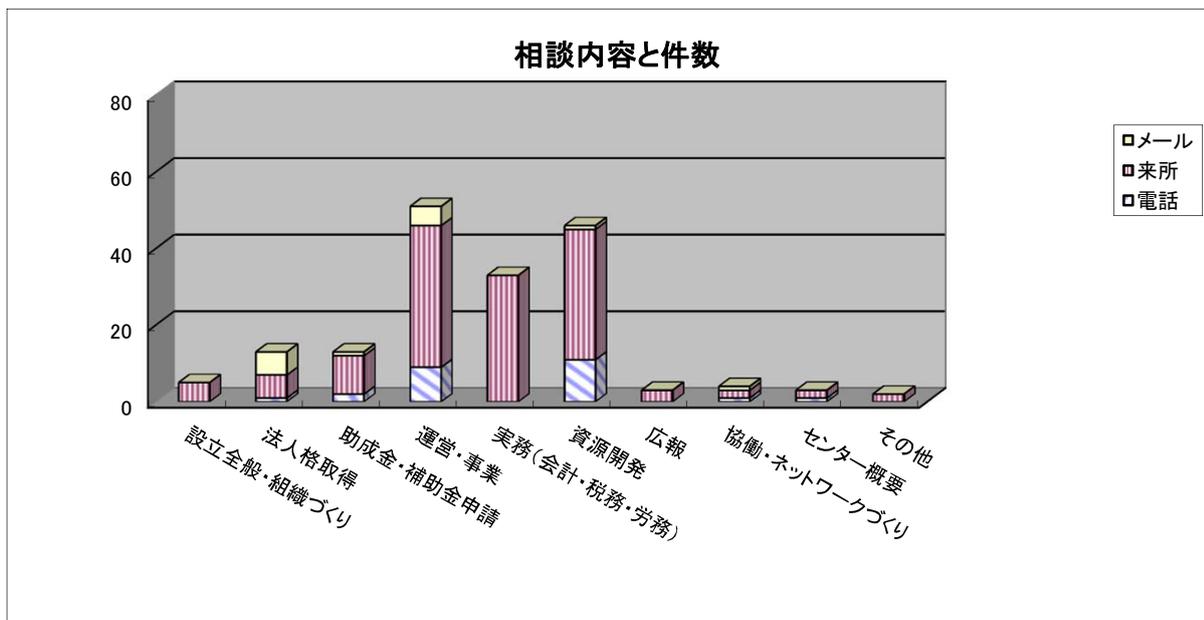
## (7) まちづくりサポーター業務

内容	<p>仕事や趣味などを通じて得た知識、経験や技術を、まちづくりのための様々な場所や場面にいかしていただけるよう斡旋・紹介を行う。</p>
対象	<p>ボランティアの応援を求めている組織・個人 ボランティア活動をしたい方</p>
手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりサポーターとして活動できる組織・個人を登録し、HPで紹介する。</li> <li>・団体が内部の人材では解決できないことがある場合、斡旋する。</li> </ul>
結果課題	<p>ボランティア活動希望者が相談に訪れた際、希望の活動やいかしたいスキルを発揮できる活動がない場合には、まずはサポーターとして登録いただき、マッチングの機会を伺った。イベント開催時に、コーディネーションをする等、個別のニーズを汲んだ橋渡しをすることができた。</p>

相談状況詳細

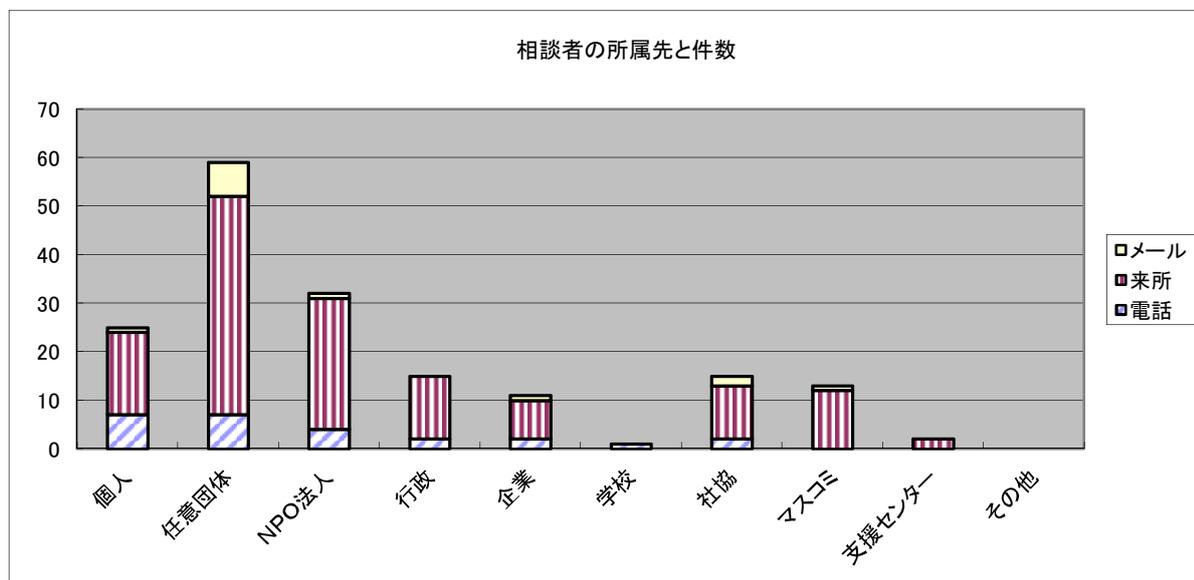
【相談内容と件数】

	電話	来所	メール	合計
設立全般・組織づくり	0	5	0	5
法人格取得	1	6	6	13
助成金・補助金申請	2	10	1	13
運営・事業	9	37	5	51
実務(会計・税務・労務)	0	33	0	33
資源開発	11	34	1	46
広報	0	3	0	3
協働・ネットワークづくり	1	2	1	4
センター概要	1	2	0	3
その他	0	2	0	2
合計	25	134	14	173



【相談者の所属先と件数】

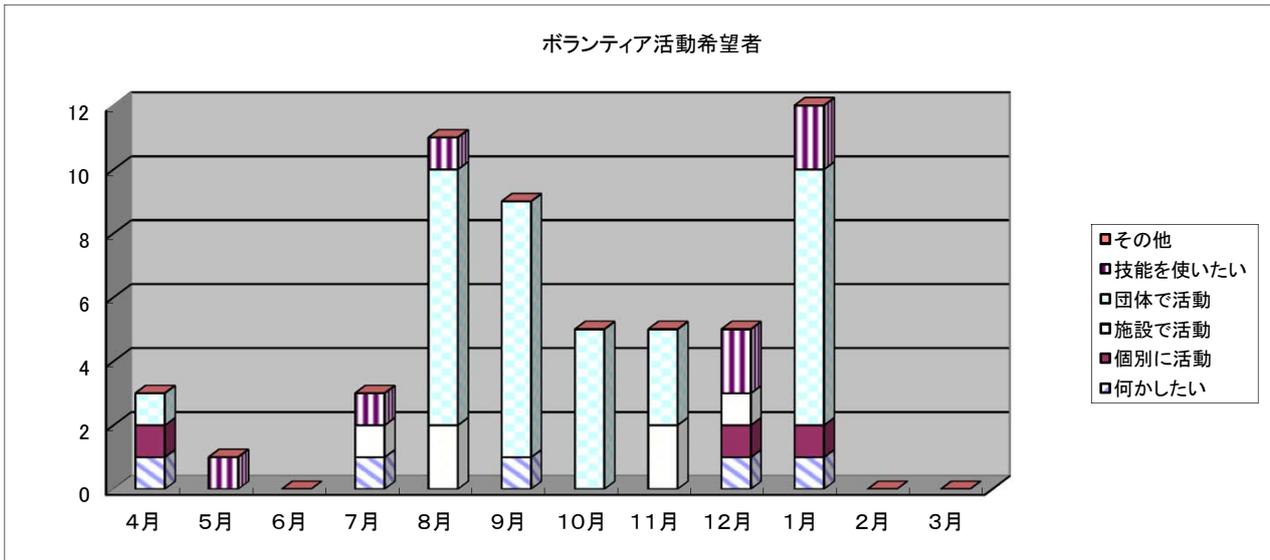
	電話	来所	メール	合計
個人	7	17	1	25
任意団体	7	45	7	59
NPO法人	4	27	1	32
行政	2	13	0	15
企業	2	8	1	11
学校	1	0	0	1
社協	2	11	2	15
マスコミ	0	12	1	13
支援センター	0	2	0	2
その他	0	0	0	0
合計	25	135	13	173



コーディネート状況詳細

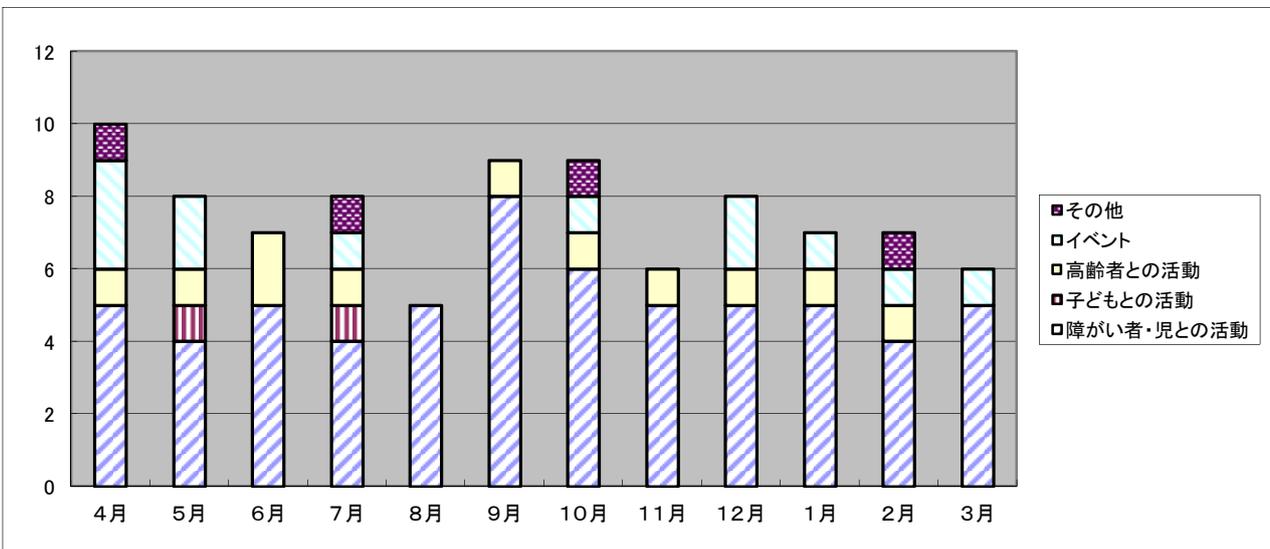
①ボランティア活動希望者

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
何かしたい	1	0	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	5
個別に活動	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	3
施設で活動	0	0	0	1	2	0	0	2	1	0	0	0	6
団体で活動	1	0	0	0	8	8	5	3	0	8	0	0	33
技能を使いたい	0	1	0	1	1	0	0	0	2	2	0	0	7
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	1	0	3	11	9	5	5	5	12	0	0	54



②ボランティアを受け入れたい組織・個人

ニーズ	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
障がい者・児との活動	5	4	5	4	5	8	6	5	5	5	4	5	61
子どもとの活動	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
高齢者との活動	1	1	2	1	0	1	1	1	1	1	1	0	11
イベント	3	2	0	1	0	0	1	0	2	1	1	1	12
その他	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	4
合計	10	8	7	8	5	9	9	6	8	7	7	6	90



## 2. その他の事業

### (1) 情報提供事業

#### ① トークカフェ in ラジオバリバリ

期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

協力：エフエムラジオバリバリ

地域の情報を広く社会へ伝える手段であるコミュニティ放送を媒体に市民活動団体紹介、ボランティア情報などを毎週 1 回に発信した。

今年度は、草の根活動の動きを大きなチカラにしていくために、ラジオを通して人と人の交流を深める趣旨で展開した。(今治市民活動センター管理運営事業自主企画事業) 様々な分野の活動規模も多様な団体が、ラジオというメディアを通して、広報活動を展開する場となった。日々の暮らしの中で感じる些細な気づきをもとに、身近な仲間たちの小さなグループからはじまる様子が伝えられた点、少人数ながら思いや責任感や役割を分担し、地域に根ざして活動する様子などは、活動未経験者へ大きなメッセージとなった。一方、こうした活動が事業を継続したり、拡充したりする力が不十分な点も見え、今後、一つ一つの活動が成熟した市民社会実現を目指す大きな広がりになるよう、人的交流や相互連携を生み出していくくみの構築を感じた。

今後は、事例等の共有をより有意義に進められたり、活動に必要なしくみを学んだりできるような展開を考えたい。

#### ■ パーソナリティは高校生ボランティアも参画 ■



▼ 伝える内容を学習し、若さある視点を織り込んだ番組づくりに感心。



▲ 放送部を中心にメンバーが活躍。スキルをいかしたボランティア活動に学校の理解も。

#### ② ホームページの運営

期間：平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月

センター事業の紹介と報告、ボランティア情報などをホームページに随時掲載した。広く情報を受発信することにより、ボランティア活動の仲介コーディネーション業務にも役立った。団体、ボランティアの方から気軽に情報を寄せてもらえるような仕組みづくりが課題である。

### (2) 審議会・委員会への参加事業

行政が設置する委員会・審議会へ参加しました。

期間	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成 24 年 6 月 20 日 平成 25 年 1 月 29 日	ヤングボランティアサポート委員会（愛媛県） 委員委嘱	青少年の自主的・自発的なボランティア活動を支援する「ヤングボランティアセンター」の事業推進の検討
平成 24 年 9 月 27 日 (懇談会は、平成 24 年 7 月まで継続)	今治市定住自立圏共生ビジョン懇談会（今治市） 専門委員委嘱	広域合併した今治市のビジョン懇談において、市民活動・ボランティア推進への意見集約
平成 25 年 2 月 19 日 平成 25 年 3 月 7 日	瀬戸内しま博覧会実行委員会愛媛企画部会 委員委嘱	瀬戸内しま博覧会開催に向け、地元関係者の意向を集約した企画内容を検討。

### (3) 講師派遣事業

依頼に基づき、講師を派遣しました。

日時	名称（主催団体）/参加の立場	テーマ・目的
平成24年 7月14日	特定非営利活動法人ナルク今治 設立総会（特非 ナルク今治）	助け合いの輪を広げるしくみ「ナルク」の 今治支部設立にあたって意見交換。
平成24年 10月28日	第6回今治タオル体操コンテスト （今治タオル体操愛好会）	地場産品・今治タオルの普及を目指した、 タオル体操のコンテストの審査員を担当。
平成25年 2月9日	協働オフィス交流会 （新居浜協働オフィス）	「効果的な広報でネットワークの拡大！」を テーマにした市民活動団体の交流会に参加。

### (4) 共同開催事業

#### ①東日本大震災被災地ボランティア活動ボランティアバス運行

東日本大震災被災地により多くの支援の力を届けるために、今治市から現地へボランティアを送迎する「ボランティアバス」を運行した。被災地での活動希望者を18名程度公募し、現地のニーズに合致した活動を展開することで、被災地の復興に寄与した。

共催：今治市ボランティア団体連絡協議会

(1回目)



#### 事前説明会

ボランティアバス参加活動希望者を募った。結果、22名が事前説明会に参加し、事業趣旨、現地でのニーズの伝達、それに基づいた活動計画を説明した。

説明会后、参加意向を確認し、18名の参加が確定。

日時：平成24年7月19日（木）19：00～20：00

会場：今治市民活動センター 大会議室

#### 被災地での活動日程

日程：平成24年9月1日（土）12：00頃 今治出発

平成24年9月2日（日）～4日（火）現地活動

平成24年9月5日（水）12：00頃 今治到着

活動者：17名



▲多くの人に見送られて出発。バス一杯のプレゼントも一緒。



▲鳴き砂の浜を清掃。  
地元の人とも協力。

復興支援のため、宮城県に向けた今治タオル体操愛好会の会員ら

宮城県・女川町の復興を共に  
東日本大震災被災地ボランテ、  
(注) 今治NPOサポートセンター

被災地で指導  
「元気届ける」  
今治 愛好会会員ら宮城へ

（渡辺小百合会長）の  
会員や今治明德短期大  
の学生ら計17人が1  
日、宮城県に向けて今  
治市を出発した。2日  
午前に着き3日間滞  
在。今治特産タオルを  
使ったオリジナル体操  
の指導などに取り組  
む。

市ボランティア団体  
連絡協議会とNPO法  
人今治NPOサポー  
トセンターが主催。参  
加者は公募で集まっ  
た市民で、現地では2  
グループに分かれ、石  
巻市と女川町の仮設  
住宅4カ所での交流事  
業と、鳴き砂の浜があ  
る同町の海岸清掃に当  
たる。

交流活動は、仮設住  
宅住民のストレスや運  
動不足を解消しようと  
計画。愛好会が考案し  
た今治タオル体操を伝  
えるほか、タオル約2  
500枚をプレゼント  
する。

出発式が1日、今治  
市別宮町8丁目の市民  
活動センターであり、  
菅良二市長が「タオル  
体操などを通じ、東北  
の人に元気を与えて  
ほしい」と激励。渡辺  
会長は「今治の元気と  
パワーを届けてくる。  
気合を入れて行って  
きます」と決意表明し  
た。この後、一行はバ  
スでセンターを出発し  
た。

▲関連新聞記事 2012（平成24）年9月2日愛媛新聞

## (2回目)

### 事前説明会

1回目の参加者を中心に、現地ニーズに応える活動を展開することを骨子に2回目の運行を企画。追加募集は、今治明德短期大学へのチラシ配布等、若い世代へのボランティアの機会提供に重きをおいた。新規メンバー12名を迎え、事前説明会を開催、ボランティアバス運行の趣旨、現地でのニーズの伝達、それに基づいた活動計画を説明した。

日時：平成25年2月8日（金）19：00～20：00

会場：今治市民活動センター 大会議室

### 被災地での活動日程

日程：平成25年3月16日（土）12：00頃 今治出発

平成25年3月17日（日）～19日（火）現地活動

平成25年3月20日（水）12：00頃 今治到着

活動者：18名



▲多くの市民に見送られての出発式。不安があった1回目とは違い、明確な決意を述べてバスに乗り込む。



▲「熊野神社」へ再来。1万株の芝桜を丁寧に。「We♡女川」の文字が花咲く春を待ちたい。



▲今治で集めた市民の善意の寄付総額は26万円。芝桜の購入費として活用いただいた。



▲今治タオル工業組合等からの今治タオルは、メッセージ付袋に入れて。愛媛みかんもプレゼント。



▲5ヶ所の仮設住宅・集会所でふれあい交流活動。今治タオル体操を中心に、多彩なパフォーマンス。

2ヶ所の保育園を巡る。参加者それぞれの得意分野をいかしての活動。参加型で子ども達にも笑顔が。▶



# タオル体操被災地へ

今治の 四国工組が200枚寄付  
愛好会

四国タオル工業組合 理事長が「被災者の日常（平尾浩一郎理事長）生活に役立ててほしい」と、東日本大震災の被災地でボランティア活動を行う今治タオル体操愛好会（渡辺小百会長）にタオル約2300枚を寄付した。同会は17日から3日間、宮城県内の仮設住宅や保育所を回り、住民にタオルを贈るとともにオリジナル体操を披露する。

愛好会のボランティア活動は2012年9月に続き2回目。NPO法人今治NPOサポートセンターなどが企画し、同会メンバーや市民有志19人が宮城県女川町などの仮設住宅約240世帯、保育所2カ所での交流活動やシバザクラ植栽に取り組み。趣旨に賛同したタオル組合加盟9社がフェースタオルやタオルマフラーを寄せた。



被災者に贈るタオルを丁寧に折りたたむタオル体操愛好会のメンバーら

「タオルは同会メンバーが一枚一枚丁寧に折りたたみ、ゆるキャラ袋に詰めていった。」

（白川亜子）

関連新聞記事

2013（平成25）年3月14日

愛媛新聞

# 被災地支援 息長く今治ボランティア報告

東日本大震災の復興支援で現地を訪問した今治市のボランティアが20日、同市別宮町8丁目の市民活動センターで報告会を開き、被災者の心のケアなど息長い支援の必要性を語った。今月16日から5日



東日本大震災の被災地での復興支援活動を報告する市民ボランティア

間の日程で、宮城県女川町などの仮設住宅や保育所を訪れ、タオルを使った体操などを通じて住民と交流した。渡辺会長（48）は「インフラの復興は進んでいるが、被災者の心は回復していない」と報告。子どもから高齢者まで幅広い心のケアの必要性を訴えた。被災者からは、ボランティアの減少や震災の風化を懸念する声も寄せられたほか、災害に備え家族が落ち合う場所を事前に決めておくようにとのアドバイスも受けたという。中国から同短大に留学中の王慧丹さん（22）は「家や木がなくなった様子を見

て悲しかった。自分のう頑張ったと話した。12年9月に続き2回目は小さいけれど被災者への支援活動は20方針。（宮野雄）

関連新聞記事

2013（平成25）年3月21日

愛媛新聞

## (5) 協力事業

### ①お困り解決！会計講座

NPO等との協働のしくみづくりを目指すために、NPO等の実態を広く市民や行政、企業等に理解してもらうことが必要である。そんな中、NPO法人の会計報告等の分かりやすさが求められており、2011年度にはNPO会計基準が提示された。

この講座は、NPO会計基準の利用促進を図り、NPO法人の透明性確保と情報公開のあり方を共有することを目指し開催した。

主 催：NPO法人えひめNPOセンター

日 時：平成24年6月23日（土）13：00～17：00

会 場：今治市民活動センター大会議室

参加者：14名



講師に税理士 弘末眞子氏をお招きし、新しく作成された「NPO会計基準」について学習した。収支計算書から活動計算書への名称変更、人件費とその他の経費の区分、ボランティアの役務や施設の賃借の無償提供部分の可視化等、法人の選択により、分かりやすい会計状況の公開ができるようになったことが説明された。

NPO法人の事業報告や決算報告については、行政に提出し、行政に確認をしてもらうという意識がある法人が多く見られるが、広く一般市民に理解してもらうことが大切。分かりやすい会計基準による情報公開を積極的に進め、賛同者、共感者を広げて欲しいとのメッセージが添えられた。学習会終了後は、個別相談会を実施。法人別に直面する会計上の悩み、課題を相談した。

### ②協働グランプリ in とうよ

豊かで活力ある地域社会実現のための手段のひとつとして、「協働」への期待と関心が高まる中、活動の大きさに関係なく、様々な形で協働し、課題解決を行っている団体が見られるようになった。この機会に、事例を通して、協働によって生まれる新たな可能性を知り、自分達にできることを考えるきっかけになるようフォーラムを開催した。

<フォーラム実行委員の募集>フォーラムの企画・当日の運営を担っていただける個人を募集

<協働グランプリ発表団体の募集>協働事例を発表する団体を公募

<プレゼンテーション講座の開催>広報活動の重要性を学ぶ講座を開催

<フォーラムの開催>詳細は、p23

## (5) 資源回収活動事業

再生可能な資源ごみを回収した。

## (6) いまばり夢学校開校準備事業

次年度への引継ぎ事項として共有した。

## (7) 「しまなみ資源」を活用した地域振興事業

自転車による地域振興を進める島嶼部の住民会議への助言を行った。

※定款上、「その他の事業」は実施しなかった。

■ 詳細報告書

とうよ協働推進フォーラム  
東予発！築こう つなごう  
未来の郷土

活力ある地域実現に多様な主体の参画による地域づくりが求められます。多様化する課題解決に、市民・行政・企業が強みを活かし合う「協働」は必須とも言えます。

フォーラムの目玉は「協働グランプリ in とうよ」。8つの協働事例に、来場者 400 名が聞き入りました。



**グランプリを決めるのは来場者！**

「ボランティアをしたいけど、きっかけがない」

若者を中心に社会貢献意欲は高まるも、実際の活動参加にはつながっていない現状があります。担い手不足の現場と共感者をつなぐきっかけになれば・・・、そんな願いを込めて開催しました。

来場者は、8つの協働事例を聞き、「応援したいな」と思ったところに投票。獲得票数が多いところをグランプリに選ぶというしくみです。



**投票のポイント**  
**「協働」の原則&価値**

- ★ **目的の共有**  
同じ方向へ進んでいるか？
- ★ **資源の持ち寄り**  
強みを活かし合っているか？
- ★ **相乗効果**  
単独実施より効果があるか？



◀ 寸劇「協働でござあ〜る」で投票ポイントを伝えた。「分かりやすかった」と拍手が。



**各団体 4 分間で活動を P.R です**



▲ **療育音楽活動サークル「カノン」**  
× **地元施設・行政・子育てサークル**  
子育て応援のハブ団体として活躍。キャラクター&歌もタイアップ。

e **ワーク愛媛** × **行政・地元企業**  
リヤカー引き売りをしくみ化。若者等の就労支援は買物弱者支援にも。



▲ **ふれあいステーションきくま**  
× **JR 四国・地元団体**  
地元・JR 四国双方の願いが一致した「無人駅」の新たな利用。



**西条高等学校商業科**  
× **地元企業・ソムリエ**  
ご当地バーガーの商品化。  
▼先輩から後輩へ受継ぐ価値。



▲ **お話し会 莓** × **行政・児童館**  
乳幼児健診の場にスキルを活かして参画。活動拡充が効果。



▲ **御島ガイドの会**  
× **社協・地元 NPO**  
観光ガイド活動の知識で移住者支援も。学生の学びにも一役。



▲ **上島ポップコーンの会** × **行政・商工会**  
離島 4 島連携による障がい者(児)の自立支援。分業は協働の一つの形。



▲ **今治ぎよしよく推進 P J**  
× **大学・地元 NPO**  
魚離れ・野菜不足の子育て世代を魅力あるカリキュラム(WS)で応援。



- ★ **グランプリ** ふれあいステーションきくま
- ★ **準グランプリ** 西条高等学校商業科
- ★ **実行委員長賞** e ワーク愛媛



▲ **投票シーン**・3 枚のシールは「共感」の印



▲ **メッセージボード**にはたくさんの花が咲きました。

エントリーしてくれた 8 団体の発表を通して、一朝一夕には解決し得ない地域課題に向き合う中で、「協働」はおのずと必要になることを再確認しました。来場者はその活動内容を聞き、自らが評価。そして、「できること」をメッセージに託しました。初めて知った活動もあったはず。「身近な活動への参加を促すきっかけになっていれば・・・」、また「会場内での出会いが次への交流や協働につながれば・・・」、そんな願いを抱きながら、催しを終えました。

### 3. 会議に関する事項について

#### (1) 総会

##### ①第11回通常総会

日時：平成24年5月8日（火）19：00～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：2011年度事業報告・収支決算報告  
2012年度事業計画・収支予算の件  
役員の新任の件  
定款変更の件

#### (2) 理事会

##### ①2012年度第1回理事会

日時：平成24年4月19日（木）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：2012年度事業計画・収支予算の件  
役員・有給役員の件  
会費の額の変更の件  
総会に付すべき事項の件

##### ②2012年度第2回理事会

日時：平成24年6月26日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：理事長選任の件  
今治市民活動センター事業「出張相談会」の件  
東日本大震災復興支援ボランティアの件

##### ③2012年度第3回理事会

日時：平成23年8月21日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：委員会・審議会への参加の承認  
協働推進フォーラムへの協力の件  
東日本大震災復興支援ボランティアの出発式の件

##### ④2012年度第4回理事会

日時：平成24年10月23日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：講師派遣の承認  
2013年度事業 企画検討

##### ⑤2012年度第5回理事会

日時：平成24年12月21日（金）19：00～  
会場：今治国際ホテル  
議題：今治市民活動センター事業の進捗状況報告  
今治市民活動センタースタッフの件

##### ⑦2012年度第6回理事会

日時：平成25年2月26日（火）12：30～  
会場：今治市民活動センター 大会議室  
議題：2013年度事業計画・予算  
2013年度総会報告事項

## 2012年度「今治NPOサポートセンター」事業報告書

---

著編者 特定非営利活動法人今治NPOサポートセンター  
〒794-0026 今治市別宮町8丁目1番55号  
「今治市民活動センター」内

TEL / FAX : 0898-34-8515

E-mail : [imanpo@nifty.com](mailto:imanpo@nifty.com)

URL <http://imanpo.org/>

---